Oral Health Promotion Club in Nara
特定非営利活動法人 オーラルヘルスプロモーションクラブ奈良
〒631-0021 奈良県奈良市鶴舞東町2番10号 TEL.0742-45-4457

ＯＰＣ奈良だより　第6号

ご挨拶　代表 田中康正

　年初来よりの、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、日本のいや世界の今迄の秩序を根底から変えようとしています。

　感染拡大を防ぐため、世界各国が人の行動制限を含む都市封鎖を行い、日本でも非常事態宣言が発令され、この間の外出自粛や商店の休業要請により、街は閑散として日常風景は一変しました。

　新型コロナウイルスの感染拡大は日本人の働き方や家庭生活をも変え始めているように思います。外出自粛を受け、在宅勤務が広がり、自分や家族のあり方を見直す機会にもなっているのではないでしょうか

　一方、企業が活動を停止し町から人が消えたことで、経済が全く立ち行かなくなり、生活困窮者が続出し、これに対して政府は一人当たり10万円の給付金を始めとする大規模な財政金融政策を打ち出し、経済の破綻を出来るだけ抑えようとしていますが、混乱が収まる条件としては、まず安全な薬やワクチンが開発され、感染の心配が低下することが一番の事と思います。

　さて、このような世界的な混乱のなかで、歯科治療は感染リスクが高いのではという指摘がありますが、もともと歯科は感染リスクの高い職種であります。それ故に、日頃からマスク、ゴーグル、手袋など個人の防護具の使用や、器材の洗浄、消毒、滅菌等を徹底的に行ってまいりましたが、4月以降は治療や定期健診の延期が相次ぎました。しかしこの時期だからこそ口腔ケアにしっかり取り組んでいただき、特に高齢者の口腔衛生状態の低下による誤嚥性肺炎を予防していく必要があります。

　また世界的な、感染拡大をきっかけに、病院に通院する事が難しくなった患者が増え、オンライン診療が大幅に増える見通しになってきました。厚労省もオンライン診療を活用し、医療の効率化と医療費の削減につなげようとの思惑が見て取れます。歯科もこの流れには避けて通れないと思いますので、早急に器材を整備し歯科のオンライン診療を実現してゆく必要があると確信します。

総会･学術講演会

令和元年6月16日（日）　かしはら万葉ホールレセプションホール

　令和元年6月16日（日）、総会終了後の学術講演会は、口腔ケア第一人者の米山武義先生をお迎えして、かしはら万葉ホールレセプションルームにて開催いたしました。130名準備した座席も足りず、超満席となり大好評で無事、終了いたしました。

このNPO法人の設立スローガンである「だれもが　いつまでも　お口から食べられる」にふさわしい内容で、世界に先駆けて口腔ケアから肺炎予防を実践された米山先生のお話は、歯科医師･歯科衛生士の今後の在り方を示唆する素晴らしい内容でした。

冒頭には、橿原市の森下豊市長にもご挨拶をいただきました。森下市長には設立の際にもご出席いただきましたが、今回も呼吸器内科医としてのお立場で、ご多忙のなか、許される時間ギリギリまで講演もお聞きいただきました。

中和保健所在宅歯科医療・口腔保健研修会　令和元年1月31日

奈良県民の歯と口腔の健康づくりを推進するための社会環境整備として高齢者介護に関わる医師、看護師、ケアマネらと歯科医師、歯科衛生士等の専門職種間で情報交換を目的とした研修会が万葉ホールにおいて開催されました。

基調講演では正田副代表が「今なぜ口腔ケアが必要か～口腔ケアの効果とは～」と題して行いました。

その後実習では歯科衛生士会吉福会長の解説につづいて多職種の方がグループごとにマナボットを使って行いました。

天理大学同窓会奈良北支部総会にて講演　令和元年6月16日

令和元年6月16日（日）ホテル日航奈良において天理大学　奈良北支部総会が開かれ、正田副代表が「噛めることはこんなにも大切」と題した講演を行いました。
超高齢時代において、噛むことと全身の健康、いつまでも自分らしく生きるために心がけるべき食生活について解説しました。

参加された年齢層はまちまちですが愉快なご質問の中に、要介護にはならないようにという思いが込められていました。

障碍児生活支援組織「きららの木」と歯科保健事業打合せ令和元年11月２１日

障碍児の自立した生活を支え、その課題の解決や適切なサービス利用の紹介、児童発達支援等を行う支援施設を運営するＮＰＯ法人「きららの木」の江川美奈子理事長の依頼を受け、障害児への歯科保健事業（講話や検診、適切な歯科診療所の紹介等）について令和元年11月21日奈良市三碓町の事務所で初回の打ち合わせを行いました。

「養護学校卒業後は定期的な歯科健診を受ける機会がないので不安である。また、どこの歯科医院に行けば治療を受けられるのか分からずに困っておられるご父兄が多い」と、悲しい現状を訴えられました。まだまだ行き届いていない障害者歯科治療・歯科保健にどのように応えることができるのかということが私たちに突き詰められています。

（新型コロナウイルス蔓延のため、現在は歯の大切さやセルフケアの方法等の啓発資料の配布を行っています）

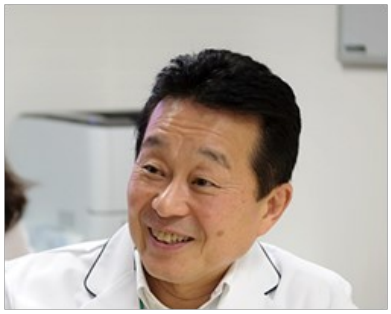
老施協研究会においてコメンテーターとして助言　ザ・カシハラ

令和元年12月9日、第３２回奈良県老人福祉施設協会研究会議の第一分科会「口腔ケア・食からのアプローチ」において正田副代表が助言者として講演を行いました。

この会議は近畿老施協施設関係者及び学生２５２名がTHE KASHIHARAにおいて参加した大規模な研究会で、５つの分科会に分かれ研究発表がありました。第一分科会では各施設の管理栄養士、歯科衛生士、介護職員らが口腔ケア・食支援の熱心な活動を発表されていました。それぞれの研究に対する助言の後、「要介護高齢者が一食を食べきるエネルギーの大きさや、認知症高齢者の摂食嚥下障害のとらえ方」について解説を加えました。

野迫川村歯科保健事業

〈多職種連携会議〉 南和総合医療センター松本院長を囲んで



令和元年3月28日、南和地区の医科歯科連携および在宅歯科医療の推進について、正田副代表の呼びかけにより、南和総合医療センターの松本昌美病院長を囲んで当該２地区の歯科医師会長らが意見交換と懇親会を持ちました。

松本院長は、かねてより高齢者の健康とお口の健康維持の大切さについてご理解が深く、五條病院長時代には野迫川村歯科診療所開設にご助力をいただきました。

また、3月23日には野迫川村における医科歯科連絡会議が、野迫川村国保診療所の前所長の根津先生と新所長天野先生の新旧交代を兼ねて歯科診療室長との間で持たれ、野迫川村民の健康について医科、歯科それぞれの役割と連携について話し合いました。

〈むし歯予防教室〉 野迫川村山村振興センター

令和元年6月6日野迫川村のむし歯予防教室が山村振興センターで行われました。へき地保育所入園児6名とその保護者4名が参加されました。

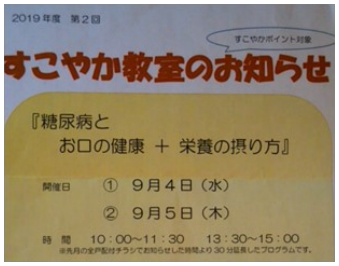
この教室は単に歯の磨き方を指導するだけではなく、歯科医師の講話に続いて、辻本管理栄養士がおやつの大切さと、むし歯になりやすい食べ物の解説をし、その場で歯にくっつきやすい市販のお菓子を食べてもらったあと、園児と保護者で日常の歯磨きを行い、その後花谷歯科衛生士によりどこが磨き残しになっているかを見てもらい、歯ブラシの当て方など仕上げ磨きの必要性を実感してもらいました。どの子も素直で自然の中ですくすく育っていると感じました。

〈歯科健診の充実〉 歯科健診・歯科相談を3日開催

第1日：　6月12日　ホテルのせ川
第2日：　6月13日　山村振興センターにて
第3日：　７月18日　野迫川村公民館にて

野迫川村村民の歯と口腔の健康のさらなる充実を目指して上記のように、村内の3か所において3日とも終日開催することになりました。また、今年は県の広域連合の奈良県後期高齢者医療口腔健診事業とのコラボで行いましたので、奈良県歯科医師会高齢者歯科部長の平山理事も遠路、野迫川まで2度足を運んでいただきました。

〈高齢者介護予防事業〉 9月4，5日　村内4か所で開催



高齢者介護予防事業「すこやか教室」は広い野迫川村の皆さんがより参加しやすいようにとの計らいで、今年度から4か所で開催しました。初めての弓手原地区は歯科診療所から1時間以上奥に入ったところで水も空気もさらに澄んだところです。

例年のように管理栄養士の辻本さんとコラボで、今年のテーマは「糖尿病とお口の健康＋栄養の摂りかた」です。歯科衛生士によるブラッシング指導もお一人づづ行いました。

障碍者施設「陽気園」での口腔保健事業

〈歯科健診と職員への歯磨き介助の指導〉

奈良市北ノ庄町の障碍者支援施設「陽気園」において、令和元年4月17日の歯磨き指導に続き、9月25日には入所者の歯科健診と職員の方への歯磨き介助法の指導をおこないました。

歯科医師による口腔内審査に続いて花谷歯科衛生士、伏見歯科衛生士（正田歯科医院）、郡司歯科衛生士（野阪歯科医院）により、施設職員（支援員）がどのように歯磨き介助すればよいか入所者お一人おひとりについて技術的な指導をしました。

職員の皆さんは多忙にもかかわらず、口腔の清潔を保つことの大切さを理解され、熱心に介助の方法を習得されていました。

〈施設職員と入所者に講演と歯磨き指導実施〉

令和2年2月26日　陽気園の支援職員と入所者向けにお口の健康を守ることの大切さについて講演を行い、続いて歯科衛生士によって、支援員の皆さんに入所者に対する口腔ケアの介助技術の指導を一人ひとりについて具体的に実施しました。

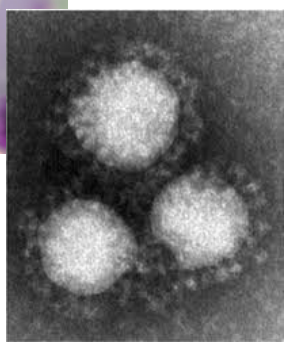
よく噛むことの健康への効果から、歯磨きの介助のポイントまで、明日からの実践につながるお話をスライドを示しながら説明しました。

〈NHK総合奈良テレビから取材〉

3月11日再び陽気園において、奈良市神殿町の児童発達支援デイサービスの「なかま」の職員も合同で講演会が開催されました。

その日、NHK総合奈良のテレビ取材班が来られ、OPC奈良による指導風景や障碍者の抱える「食べることの支援の難しさ」等について現場の職員に種々取材されていました。

新型コロナウイルスに負けないために！



ウイルス感染は、主に鼻と口と目から起こります。ただし、ウイルスが入ってきたからといって、すぐに感染するわけではありません。感染がおこるかどうかは、ウイルスが体内の粘膜細胞の中に入り込むかどうかで決まります。

口腔内の細菌が、ウイルスを粘膜細胞内に侵入するのを助けるタンパク分解酵素を産生することがわかっています。特に歯周病菌が強力なタンパク分解酵素を有していることがわかっており、歯周病菌のコントロールがウイルス感染症予防に有効です。

新型コロナウイルスの蔓延による緊急事態宣言は一応解除されましたが、第二波、第三波の怖さは残っています。また、むし歯や歯周病などの痛みや腫れ等は放置できないものです。口腔内の状態を正常に保つことがウイルスの予防につながるわけですからご心配なく歯科受診をしてください。

ホームページもご覧ください

OPC奈良　検索